

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392900041		
法人名	株式会社 翔栄		
事業所名	グループホーム和鹿島		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿野1301番地2		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日	平成30年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用型デイを併設しており、グループホームの入居者の1日の流れもデイ利用者と同じプログラムで午前中ラジオ体操・機能訓練・脳トレ(計算ドリル・漢字ドリル・ぬり絵)をその日の体調・気分等を考慮し、意思確認を行ないながら実施している。また、昼食前・夕食前は歌のレクレーション・口腔体操を実施している。午後からは休憩で昼寝する人・テレビ視聴する人・職員と会話を楽しむ人それぞれ自由に過ごしている。入浴は午後からで無理強いせず支援している。利用者の方とのコミュニケーションも積極的に取っており日中一人になる場面は少ない。一日一笑を実践しようと明るい環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共同型デイを併設したホームは、『こころ寄り添う介護』を基本姿勢として、すべての出会いに感謝しながら日々のケアにあたっている。意思表示が少なかつたり発語困難な方には、寄り添いと表情からその思いを推察し、一人ひとりのペースでの暮らしを支援している。また、家族とのコミュニケーションを大切に、利用料金を持参払いとすることで、面会を通して本人の状況やホームの取り組みを直接見てもらう機会としている。職員が生き生き働く姿や、穏やかで家庭的な雰囲気は家族にとっても訪れやすく、目配りや気配りのある介助の姿に感謝の言葉が寄せられている。入居者の得意分野や自慢だったことに取り組みめる環境や、重度化により居室での時間が中心でもホームの一員であることを感じられるような支援など、出会いを大切にされたケアに努めるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作成した介護理念で職員の入れ替わりもあり見直し、共有して実践につなげていく。	介護理念の4項目を玄関等に掲示し、無理強いをしない事や止めないこと等を基本として日々のケアに努めるよう管理者は指導している。今の職員体制の中では理念を話しあう時間を作るのは難しい状況にあるが、話し合う機会や見直しの必要性は認識されている。	理念は具体的でケア指針であると認識されている。“こころ寄り添う”とする基本姿勢のもと、利用者目線での介護にまい進されており、時間的な余裕が出来れば、日々のケアが理念に直結しているかなどの振り返りの場が作られることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者が積極的に地域の一員として交流しているが、事業所自体の交流は少ない。	理念の中で、地域に信頼される関係作りに努力することを掲げ、会合や清掃活動に参加しながらホームの啓発に努めている。田園地帯という立地的な面や、開設して4年利用者もレベル低下にあり、外に出て地域住民との交流は難しいのが現状であるが、散歩時の挨拶やボランティアと交流されている。	利用者が地域に繋がりがながらの生活は困難のようで、デイで利用される地域の方の訪問が地域との接点として生かされており、今後もホーム独自の取り組み等を発信していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に他地区の民生委員の方にも声かけし参加して頂き、認知症の人の理解や支援の方法を提案している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを行い、意見を頂いたりしているが、サービス向上には活かし切れてない。	2ヶ月毎に開催している運営推進会議は、利用状況・活動及び研修内容等の報告、外部評価での課題や目標等を説明し、質疑応答が行われており、参加委員からの意義ある意見も出されている。防災の研修を受けた報告では避難に対する質問等有意義な会議となっており、ホームならではの良い取り組みの発信場所として大いに期待したい。	運営推進会議が定期的な、充実したメンバー構成で開催されている。ホームの活動が地域に理解される機会や認知症ケアの啓発の一環として、更に参加者から率直な意見等を提示いただき、サービス向上に反映いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい実情やサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くように努力している。	運営推進会議が行政や地域包括支援センターとの関係性を深め、運営推進会議の案内状の持ち届けや介護保険制度等の情報リサーチに出向いたり、認定調査時に立会い、情報を発信している。また、運営推進会議の中で、行政からの情報が提示されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関は日中は常時開錠している。全ての職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように努力している。	身体拘束はしないのが当たり前であり、しないことを原則とし、ホーム内外の研修により再確認しており、全員が拘束の弊害を正しく認識している。玄関の人感センサーや居室のセンサーマットを使用している(家族には説明している)が、センサーに頼らないケアを徹底するよう指導している。外出傾向に気配り・目配りを徹底し、職員のつい出してしまう”ちょっとまって”等の言葉使いがあることは認識されており、今後も注意喚起いただきたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加を呼びかけ、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されないよう注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学んでいる職員も少なく、活用できるような支援はできてない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね十分な説明をおこない理解・納得して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一回は必ず家族が来られるので、その時に意見や要望をお聞きし職員に伝え運営に反映させている。	利用料金を持参払いとすることで、家族の訪問のきっかけの一つとして生かされ、訪問時に意見や要望等を引き出すとともに、玄関先には意見箱を設置している。家族会(敬老会)時や運営推進会議も問題提起の場として生かされ、今年(令和5年)は終末期についての話し合いや、外部評価結果の説明も行われている。利用者の声からトイレの高さを調節する等日々の会話の中で聞き取りし、ケアサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のカンファレンスで意見や提案を聞いているが、反映に至るまで時間がかかりすぎている。	毎月のカンファレンスを職員が意見や提案を出す場とし、朝の清拭方法や書式の変更(チェック式へ)等の提案にまずはやってみる事としている。業務内容の検討や実行に移すかの話し合い等緊急のカンファレンスも行い、業務変更後の意見も確認する体制とし、申し送りノートを通じて情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持てるよう処遇改善についての要件を改善し給与水準の引き上げを計っている。また、職場の環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は全て掲示し、希望者に対する研修費用は全て法人負担としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修等に参加し、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族、担当ケアマネ、関係者の方々よりの情報を共有し、なじみの関係がつかれるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと要望等を傾聴、共感し職員ともに共有して関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め他サービスの導入も必要であれば勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人として共に過ごし支えあう、お互いに元気を分かち合うような同じ屋根の下に暮らすもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に対する家族のこだわり、苦しみ、喜びを一緒に分かち合い利用者の生活を共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人が気軽に面会に来れるように心がけている。また、希望があれば外出等の支援が出来る様努めている。	家族の訪問や、近隣者、友人等馴染みの人びとが気軽に訪問できる環境を作り、地元の神社への初詣や、「家に帰りたい」との思いに応え、退居されても共用デイの利用により(昼・夕食の2食事付)馴染みの環境を継続させている。また、好みの食べ物・飲み物等こだわりの部分を継続して支援している。毎日遠方の家族から電話を受ける方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族的な環境で孤立されないよう平等に接し、利用者同士が係わり合い、支えあうような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了された家族に会ったときは挨拶し近況を伺いその情報を職員と共有しているが、相談や支援までには至ってない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意識し努力しているが、困難な場合が多く本人本位で検討して行くように努めている。	利用者との1対1の時間で思いを聞き取りし、食事へと反映させている。発語困難や意思表示も少ない等のなかで、笑顔や満足される様子、行動等を判断材料として推測し、ケアに反映させるよう努力している。利用者とのコミュニケーションツールとしてジェスチャー等も駆使し、家族にも寄り添い、本人の立場に立って判断したり、ホーム側から提案しケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者情報や家族からの情報で把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルサインのチェックで異常の早期発見に努め、顔色、表情、行動等の変化により一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や職員の意見や要望・アイデアを参考に介護計画を作成している。	家族の訪問時に心身の変化などの説明し、意向等を聞き取りするとともに、担当職員に聞き取りした情報などをもとに、3か月毎に見直し新たなプランを作成している。また、介護保険更新時にはアセスメントから見直しており、現状に即した個別的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過的に記録を残し職員間で共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昨日まで出来ていた事が急に出来なくなった時などは本人に合ったケアを実践しているが多機能化には取り組んでいない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握できてないが、行事にはボランティアの方々に参加して頂き、楽しい時間を過ごして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族等の希望を大切に、かかりつけ医との関係を築いている。また、看護職より他科受診等の声かけをして適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の意向を尊重したかかりつけ医を支援している。現在は殆どの方が協力医による往診や、他の医療機関による往診、家族による受診対応となっている。突発的な医療支援の場合は、家族やホームでも速やかに対応している。口腔ケアについては歯磨きや義歯の管理など個々に応じて行い、歯科の往診を受ける方もおられる。また、週1回の訪問看護による健康チェックは、家族や職員の安心と、必要に応じた医療に支援に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、状態の変化や異常についての情報を看護職と共有し、適切な処置、受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院関係者との情報交換や相談に努めているが、関係作りは特におこなっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方についてキーパーソンとの間では話し合いができており、家族会でも事業所のできる事を説明している。また一部のかかりつけ医には事業所の方針を説明している。	家族会の中で終末期支援について、医療中心になると困難であることやホームに出来る取り組みを説明している。週1回の訪問看護は受け入れているが、常時看護職員はおらず、対応に限られることも説明に加えている。これまでギリギリまでホームで対応し、最初は医療機関で亡くなられた事例があり、職員はホームの取り組みを理解しており、看取りに関する外部研修に参加した職員による復講により共有している。	ホームのできるギリギリまでの支援に努めており、今後は職員のメンタル面を皆で支える研修会の開催に期待したい。また、利用者の状況によっては、看取りに関する支援について書面で交わすことも必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は昨年数名の職員が参加しているが、全ての職員が参加してないので全員が実践できるよう訓練に参加していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練は年2回おこなっているが、地震や水害時の訓練についてはこれから検討していく。	消防署の参加協力を得た訓練と自主訓練を実施し、動きが機敏であったなど評価された点は継続に努め、指摘された内容は課題として次回に臨むこととしている。日常の安全チェックにより、空気清浄機のごみにも気を配ることや、コンセントのさし口の交換など改善が図られている。昨年の熊本地震発生後、グループホーム連絡協議会などで開催された防災に関する研修会の内容は、運営推進会議でも報告している。	今後は自然災害の訓練を検討したいとしている。熊本地震の被害は少なかったようであるが、職員の意識強化や地域との協力体制に繋げるためにも、まずは机上での訓練を行っていただきたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はできているが、人格を尊重し誇りを損ねない声かけや対応ができるように努力している。	利用者の尊厳に配慮しながら心寄り添う介護に努めている。利用者の中には、方言が理解される場合もあるが、口調や丁寧な方言の使用について管理者は指導している。呼称は苗字にさん付けを基本としているが、反応などにより下の名でも対応している。入職時や研修会の中で、守秘義務の徹底について周知し、家族へも個人情報の使用について説明し同意を得ている。	ホームにはボランティアの訪問もあり、今後は個人情報や守秘義務について説明いただき、双方にとって有意義な交流を継続されるよう期待したい。
----	------	--	--	---	---

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が表れた行動がある場合は見守り、支援している。自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心がけているが時として業務優先になってしまふ時があり、一人ひとりのペースを大切に、希望にそって支援できるように努力していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しているが、もう少しゆとりを持って個別支援できるようにしていく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は準備は職員で行なっているが、片付けはできる範囲で一緒におこなっている。	利用者の楽しみである食事支援は、開設時から特に力を入れている一つであり、旬や地元食材にこだわり昼・夜は専任者を中心に調理されている。面会時など食事の場面を目にした家族からは、バランスの良いメニューや職員も目配り気配りをしながら一緒に食事を摂っていることに感謝が寄せられている。身体状況から形態もミキサー食も準備しており、苦手なものには代替えを用意し支援している。	利用者が台所に立つ機会はないが、献立作成への要望や干し柿作り、下膳などできることで食への関わりを支援している。今後も利用者に美味しい食事を提供し、一緒にその時間を楽しんでいただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体の必要なカロリーや水分量については記録に残し、その人の希望する主食や食事の形態や摂取時間の変更等、できる限り対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケアをしているがより丁寧に取り組めるよう努力していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	客観的データのもと職員間で情報交換を行い努力している。	排泄パターンや状況を職員間で共有し、プライバシーにも配慮しながら声かけ・誘導を行っている。利用者は居室の近くなど使い慣れたトイレがあるが、食後など混雑する場合は、職員がスムーズに他の場所へ案内している。昼夜の排泄用品の使い分けや家族の希望により、布パンツにパットの併用、臥床中心の方も訴えがれば、尿器の使用など個々に応じた排泄支援であることが、記録や聞き取りから確認された。	失禁時の対応がスムーズに行えるよう、奥にシャワー浴場のあるトイレを設けるなど、プライバシーに配慮した設備も確認された。便座の高さも入居者の声に合わせて取り組んでおり、今後も入居者の目線や声を大切に支援いただきたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた献立作成と水分摂取量を増やしたり体操をしたり腹部マッサージ等を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず一人ひとりのペースで入浴を楽しめるように支援している。事業所の都合 午後からの入浴になっている。	入浴は1日置きに午後を中心に取り組む他、汚染時は可能な限り入ってもらい不快なく過ごせるようにしている。入浴はマンツーマンでコミュニケーションを取る機会として生かされ、湯温や同性介助など希望や湯船よりシャワー浴が安心される方など身体状況に応じながら支援している。また、臥床中心になられた方も直近まで入浴を支援していたが、身体面から二日置きの清拭と全更衣により清潔保持に努めている。	しょうぶや柚子など季節湯支援では、2日間実施することで全員が楽しめるようにしている。浴室はスッキリと清潔に管理されており、今後も個々に応じた入浴支援を継続いただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々を大事にし、その時の状況に応じて休憩したり、一人ひとりの生活習慣に応じて入床時間をずらし安心して寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を一応目は通しているが全ての薬の副作用、用法、用量、を理解できてない、症状の変化の確認はできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意識して努力はしていないが、ノンアルコールビールを提供したり洗濯物たたみ、新聞紙折り、イリコの頭とり等のお手伝いをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力があっても重度化により外出が困難になっている入居者が増えている。数人は家族の協力しながら出かけられるよう支援できている。	身体状況に応じながら花見や初詣等の外出やドライブを喜ばれる方には個別で出かけている。重度化傾向にあり、全員や希望に沿った外出支援は困難になっている現状に、身近な場所への外出や日光浴など個々支援を進めていきたいとしている。	中庭の芝生は安全に外気浴が行えることから、今後もデッキと共に活用されることを期待したい。また、家族の協力を今後も呼びかけ、一緒に外出の機会を作っていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持、管理は家族の意向に合わせている。希望や力に応じて所持したり使えるような支援はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話や手紙のやり取りはできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除と食後の掃除をおこない清潔に心がけている。また、季節感のあるものを展示したり、花を飾ったり、音楽を流したり居心地よく過ごせるように工夫している。	玄関のプランターやホーム内には花苗や職員の持ち寄った花、掲示物が季節感を醸している。職員は掃除や換気に努め、食後は特にこぼしがないか、入居者の尊厳に配慮しながら床の確認が行われていた。日中はリビングで過ごされる方が殆どであるが、テレビに頼ることなく、音楽や職員との会話により安心して過ごしてもらえるようにしている。訪問当日、ベランダには多くの柿が吊るされていたが、「まだ皮むきには数日してからが良か！」と、利用者の指導によりその日を待つ柿は天日干しされており、のどかな光景を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でも自由に過ごせるような居場所の工夫をしているが、認知レベルの差もありトラブルになることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参していただくようお願いしている。誕生日の色紙や写真を飾ったりしている。	これまで使っていた家具や衣類、好みの品などを持ち込んで欲しいと依頼している。定期的に家族の目線で居室内の掲示物や設定などが行われている部屋や、自身の手作り人形を枕もとに並べておられる方など、本人が安心して過ごせる環境になっている。居室は押入れも備わり使い勝手の良い空間であり、職員は掃除をはじめ、天気の良い日は布団干しにより衛生面と気持ちよく安眠できるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や本人の居室が分かるように大きく掲示している。また、自由に過ごせるよう見守りしている。		